



コロナ禍における米国でのリモート調停

1. はじめに

新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で、日本でもリモートワークが普及し、また、リモート会議の導入が進んでいると思います。私が拠点としているシリコンバレーでは、パンデミック前からリモート会議が広く普及していました。シリコンバレーにおける交通手段は主に車ですが、パンデミック前は交通渋滞が全米で最も酷いエリアの1つとも言われ、車で移動して対面で会議を行うことに合理性を感じられないことが多かったのが普及の理由の1つと思います。

リモート会議は一例ですが、このようなサービスが既に普及していたことから、パンデミック発生後に、対面から非対面に移行するスピードが速かったように感じています。私がシリコンバレー在住の知財関係者に話を聞いた限りでは、リモートになったことを除き、コロナ前後で業務に大きな変化はないと感じている人が多いようです。

2. 米国特許訴訟

他方で、知財の分野でコロナの影響を大きく受けていることとして、米国の地裁における特許訴訟があると思います。私も日本企業が当事者となる米国特許訴訟に日頃から関与していましたが、米国特許訴訟の殆どにおいて訴訟スケジュールが変更されています。

リモートで行われている訴訟手続もある一方で、特に陪審によるトライアル(公判)は、コロナの影響で大きく遅延しています。陪審による対面でのトライアルは、2021年2月22日にテキサス州西部地区で実施されたのが全

米で約3か月ぶりとなったようです。また、リモートでのトライアルは、クリアしなければならない課題が多いようで、実施されたという話をまだ聞きません。

3. リモート調停

このような状況の中、私が関与している米国特許訴訟において、リモートでの調停を何度か経験しました。私の経験では、リモート調停は、対面の調停とそれほど大きな違いはないと感じています。

リモート調停は、Zoomを使って行われました。リモート調停では、調停人の他に、Zoomを操作する担当者が常駐し、調停人の指示によって、当事者全員を集めたり、各当事者を個別のブレイクアウトルームに割り当てたりします。調停人は、各当事者のブレイクアウトルームを行き来して、論点をまとめ、交渉を進めていきます。調停人が一方当事者のブレイクアウトルームにおいて議論している間、他方当事者は、割り当てられたブレイクアウトルームにおいて、打ち合わせることもできますし、休憩を取っても構いません。また、調停人と当事者がブレイクアウトルームで議論している途中に、調停人に一時的に席を外してもらい、内部で打ち合わせることも可能です。このように、リモート調停は、リモートであること以外、対面の調停と大きくは変わりません。

リモート調停のプラス面として、やはり参加しやすいことがあると思います。当事者の長距離移動が不要なことが大きな理由です。リモート調停によるマイナス面としては、時

差の影響が大きいように思います。特に米国の東部や中西部を基準に考えると、調停が日本時間の深夜に開始することが多くなるように思います。これは調停が長引いた場合、日本企業にとって大きなデメリットになると思います。

また、複雑な論点を議論するのは、やはり対面の方が進めやすいように思います。特許訴訟の複雑な論点を調停の場で議論することは少ないかもしれませんが、複雑な論点を持ち出したい場合には、調停に先立って、調停人との事前調整が重要と感じました。

4. おわりに

リモートの良し悪しはさておき、リモートの普及は今後も進んでいくという見解が多いと思います。そのような中、グローバルな視点では、自分と先方との物理的な距離よりも、自分と先方との時差の方がビジネスに影響するようになるのではないかと推測しています。

私は、パンデミック前は、カリフォルニアを拠点としつつ日米間を頻繁に行き来していました。現在は日本へ行くのが難しい状況になっていますが、リモート会議が普及したおかげで、米国出願や米国訴訟において日本企

業の皆様をサポートする機会が格段に増えており、コロナ禍における数少ない嬉しい出来事となっています。



日本企業が保有する、シリコンバレーにあるワイナリー。シリコンバレーよりも長い歴史を持つワイナリーである。



シリコンバレーを走るディーゼル機関車。シリコンバレーの公共交通機関は極めて不便である。

筆者紹介

佐藤 睦

日本国弁理士。Texas Instruments及び東京エレクトロニクスで半導体デバイス関連の研究開発に従事した後、2003年に弁理士としてTMI総合法律事務所に入所。特許出願、特許訴訟を中心に、特許に関連する業務を幅広く担当。2009年より同事務所パートナー、2017年より同事務所シリコンバレーオフィス責任者。横浜国立大学大学院工学研究科博士前期課程修了、コーネル大学ジョンソン経営大学院卒業。